

コロナ禍で風水害時に開設する自主避難所について

風水害時に開設する自主避難所とは

避難所には大きく2つの種類があります。一つは、大地震や土砂崩れなどによって住まいが倒壊したなど、自宅が住めない状態となった方が比較的長期間に渡って「避難生活」をすることです。もう一つは、台風の襲来の際などに、土砂崩れ、洪水や高潮などの危険がある場所に住んでいる方が、それらに巻き込まれないように、嵐が過ぎ去るまで一時的に身を寄せるところです。

風水害時に開設する自主避難所とは、後者にあたるものです。

開設する施設は、コミュニティセンターや体育会館の中から、襲来する台風の規模などの状況に応じて決定し、余裕をもって避難できるタイミングでお知らせします。

お知らせにあたっては、市ホームページ、市の公式ツイッターやLINE、防災情報メール、防災行政無線、NHKデータ放送などを用います。

なお、市が開設する自主避難所に行くことだけが避難ではありません。安全の確保できる親戚や友人の家なども、避難先として有効です。

避難とは「難」を「避」けること。安全な場所にいる人まで避難所に行く必要はありません。自分が住んでいる地域にどのような被害が想定されるか、「ハザードマップ」を使い確認しましょう。

避難するときには

繰り返しになりますが、自主避難所は台風などの嵐が過ぎ去るまでの数時間から1泊2日程度をすごす場所です。その間に必要となる、飲み物や食べ物、いつも飲んでいる薬などをご持参ください。

またこの他に、新型コロナウイルス感染症対策として「マスク」「手指消毒薬」「体温計」、暑い季節では熱中症予防のために扇子やうちわの持参もお願いします。

避難所でのおねがい

津波からの避難は、一刻も早く高いところへ逃げる必要があります。

一方、台風などの際の自主避難は、時間に余裕をもって行動できます。自主避難所に到着したら、次の項目で説明するように手指の消毒など、いくつか皆さんにやっていただくことがあります。このときには、落ち着いてソーシャルディスタンスを保つようにしてください。

また、避難所にいる人々は、市の職員も含めて、全員が嵐を乗り切る同志です。みんなで協力しあうようにしてください。

避難所到着後のなぐれ

① 手指の消毒

入口にアルコール消毒液がありますので、手指を消毒してください。

② 検温

職員が、皆さんの額で体温を測ります。37.5℃以上ある方とそれより低い方を振り分け、37.5℃以上ある方は「症状のある方用の部屋」へご案内します。

③ 避難者カードの記入

どなたが避難しているか把握するためのカードです。世帯を単位として、皆さんに記入していただきます。

万が一、市内で建物が倒壊するような土砂崩れが発生した場合などに、その建物に住んでいる人が避難所に避難しているかどうかを確認します。避難していることが確認できれば、災害現場では土砂に巻き込まれた人はいない前提で作業を行い、確認できない場合には人命救助を優先した対応をとることになります。災害が発生した場合には、非常に重要な情報となりますので、カードへの記入にご協力ください。

なお、②の検温で熱があった方が一人で来られていたら、この避難者カードは「症状のある方用の部屋」で記入してもらいます。

④ 避難スペースへ移動

避難所には、畳の部屋、広い体育ホールにテントを置いた部屋、椅子に腰かけるタイプの部屋など、いろいろな部屋があります。どの部屋で過ごすかは、避難した人のそれぞれの状況によって決めます。

嵐を乗り切る同志として、ご理解とご協力をお願いします。

○避難所から自宅へ戻る場合

必ず職員に帰宅する旨、お知らせください。

「③避難者カードの記入」にありますように、誰が避難所にいるのかいないのかは、災害時には非常に重要な情報になります。



【受付での検温】



【避難所用テント】

お問い合わせ先
横須賀市市民部危機管理課
TEL 046-822-8357